

太平洋戦争末期に軍事資材として供出され、台座だけが鹿児島市新屋敷町に残る乃木静子の銅像を建立しようと「乃木静子夫人奉賛会」が発足した。今後、募金活動に取り組み、2016年の完成を目指す。

乃木静子は明治期の陸軍大将乃木希典の妻で、女性のかがみとされた。銅像は1919(大正8)年に出身地の同地に建てられたが、長年“不在”的状態が続いた。鹿児島市の甲東福祉館で13日にあつた発

足式には、町内会関係者ら約30人が出席。これまで活動してきた銅像建立準備委員会の平瀬葉子会長を、奉賛会の会長に選任す

ることを承認した。募金額の目標を100

0万円と設定し、街頭募金などで協力を呼び掛けていくことも確認した。

平瀬会長は「撤去前の銅像の情報も寄せられており、建立がますます現実味を帯びてき



乃木静子夫人奉賛会の発足式であいさつする平瀬葉子会長

=鹿児島市の甲東福祉館

6人を表彰  
おぎおんさあ  
フォトコンテスト  
鹿児島市の「おぎおんさあ」(7月19、20日)をテーマにした「フォトコンテスト」の表彰式が9月上旬、同市の鹿児島商工会議所であり、特選と入選の6人を表彰した=写真。

今年は97人から265点の応募があり、佳作以上計17点が選ばれた。子どもの健やかな成長を願う「稚児上げ」や、勇壮な男みこしな

## 「乃木夫人像復元を 有志が奉賛会 募金呼び掛けへ」

た。会を通じて緑を広げて、2年後の除幕式につなげたい」と話した。問い合わせは同奉賛会=099(226)7457。(常深さゆり)